

プレチラクロール剤 エリジャン (ジャンボ / 乳剤)	取扱メーカー： シンジェンタ 原体メーカー： シンジェンタ
成分： プレチラクロール〔酸アミド系 PRTR・1種〕15.0%(ジャンボ), 12.0%(乳剤)	性状： 淡黄赤色細粒, 水溶性パック入り 1パック30 g (ジャンボ) 黄赤色澄明可乳化油状液体 (乳剤) 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第2石油類(非水溶性)・危険等級Ⅲ(乳剤)

【品目特性】

〈共通〉

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

〈ジャンボ〉

- 1成分のジャンボ剤である。
- 圃場内へ投げ込むだけのジャンボ剤で水溶性パックを圃場内に投入・着水後速やかにパックが溶け内の粒が圃場全面に拡散する。

〈乳剤〉

- 一年生雑草からマツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカに優れた除草効果を示す。
- 低温条件下で雑草がガラガラ発生する場合でも安定した除草効果があり、通常体系処理で問題なく防除できる。
- 水中拡散性に優れるため、原液のまま散布するだけで、安定した効果が得られ、省力的である。

【使用上のポイント】

〈共通〉

- 共通注意事項の5、水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。
- ノビエの1葉期までに時期を失ないように散布する。
- 多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布する。

雑草名	散布適期	
	ジャンボ	乳剤
ホタルイ ヘラオモダカ	発生始期まで	
ミズガヤツリ	発生始期まで	—

〈ジャンボ〉

●移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用する。

●コナギ、ミズアオイは発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な剤との組み合わせで使用する。

〈乳剤〉

- 植代、均平作業後に湛水深を3～5cmに保った状態で、原液を散布する。
- 水面に浮遊物（ワラなど）がある場合は、拡散の障害となるので、散布前に取り除く。
- 一発処理剤又は中期剤との体系使用では、10a当り300mlを散布する。
- 多年生雑草が多く発生する圃場で使用後に残草が見られる場合は、その草種に有効な体系処理剤を使用する。

【薬効・薬害等の注意】

〈共通〉

- 共通注意事項の5、水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。
- 適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

〈乳剤〉

- 田面が露出しないように十分に湛水するなど、薬剤が水中で十分に拡散するよう留意する。
- コナギの多発田では効果が劣ることがあるので、コナギに有効な薬剤との体系で使用する。
- 無人航空機散布で原液湛水散布する際は、共通注意事項の2、空中散布及び無人航空機（無人ヘリコプター散布等）による散布・滴下に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………
 〈共通〉

- 魚類，藻類に影響を及ぼすので，使用時並びに使用後も注意。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

〈乳剤〉

- 蚕に対して影響があるので，周辺の桑葉にはかからないようにする。

〈乳剤〉



【適用と使用法】……………

①エリジャンジャンボ

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	植代後～移植前7日 又は 移植直後～ノビエ1葉期 但し，移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (300 g)	水田に小包装 (パック) のまま投げ 入れる。	1回 ※

※プレチラクロールを含む農薬の総使用回数：2回以内

②エリジャン乳剤

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ	植代後～移植 7日前まで	300 ml	原液湛水 散布	1回 ※
		移植直後～ノビエ1葉期 但し， 移植後30日まで			

※プレチラクロールを含む農薬の総使用回数：2回以内